

多様な社会のよう

新座市立池田小6年

斉藤 永莉 12 (新座市)

令和5年7月5日読売新聞ひろば掲載

我が家では毎年、雛^{ひな}祭り^{まつり}にちらし寿司を食べる。具が沢^{さん}山入^{さん}っ^ていて大皿にのせられる様子は、いつ見ても飽きない。そんなちらし寿司だが、先日ふと、今の社会を描いているような、そんな気がした。ちらし寿司は、家によつて作り方も具材も異なる。今私たちが生きる社会も、性格だつて見た目だつて異なる人たちが沢山いる。「社会」という一つのお皿にのつて、協力しながら生きている。

ちらし寿司を初めて作った人は、こんなメッセージ性を考えていないと思う。でも、物語の解釈は人それぞれに違うのと同じで、ちらし寿司についてどう思うかなど人それぞれだ。こつこつした価値観すら、ちらし寿司に似ていると思つてしまふ。